

参加者募集!

私たちの町に受け継がれる「匠の技」と「森の活用」 森は身近に生きている!

何十年、何百年の人間と森の循環で育った樹木。その樹木で建築された、新旧の木造建築を見学してみませんか!

日時 平成19年1月20日(土)9:00~15:00

集合 JR紫波中央駅前

内容 星山小学校、平井邸、虹の保育園、武田家等

定員 40名

参加費 1人500円(弁当代)

(あぐり茶屋の弁当を食べながら、地産地消のお話をします)

お車でおいでの方は、紫波中央駅西側の100円駐車場をご利用ください。

企画・実施 森と家づくりの会



手が荒れる季節です 石けんを使ってみませんか!

水環境の保全に配慮した「わかしお石けん」を紫あ波せ本舗で販売しています。

紫波町の進める循環型まちづくりには水環境の保全も含まれていますが、わかしお石けんは環境に良くないとされる合成界面活性剤を一切含んでいません。市販の合成洗剤に比べて海産物に与える影響は低いことから、安全・安心な水産物を提供しようと漁場や漁村周辺の環境保全に取り組んでいる岩手県漁連が推奨しており、紫波町でもその取組みを応援しています。漁場の環境保全を行うためには、沿岸部だけでなく、川の上流域とも連携した取組みが必要です。

紫波町においても、北上川上流域に暮らし、水産物を消費している消費者としても、石けんを使ってみましょう。



ペレット販売

「循環型まちづくり」の森林資源循環から生まれたペレットストーブ用燃料「紫あ波せペレット」を販売しています。木質ペレットは、岩手中央森林組合や町内の製材所から集めたかんなくずなどを原料に製造しています。

注文販売となりますのでご希望の方は紫波みらい研究所事務所までご連絡ください。(生産量が限られていますので紫波町在住の方のみの販売となっております。ご了承ください)

販売価格

1袋(10kg) 350円



編集後記

師走に入り、今年も過ぎ去ろうとしています。今年一年、皆さんはどのような年を過ごされましたか?最近ではノロウィルスなどが流行っていますが、健康には気をつけて、元気に新年をむかえたいですね。

会員数

平成18年12月現在
個人会員:98人
団体会員:2団体
賛助会員:4団体

みらい通信

第17号

発行元 NPO法人紫波みらい研究所

連絡先 〒028-3318

岩手県紫波郡紫波町紫波中央駅前1-2-2

電話 019-671-2244 / FAX 019-671-2243

E-Mail miraiken@shiwa-mirai.com

ホームページhttp://www.shiwa-mirai.com

発行日 平成18年12月

ワン・コイン・セミナー 「食は地元にあい!」第6弾

平成18年11月2日(木)

場所 なんバザホール

参加者 19人

今回のワン・コイン・セミナーは『そば畑からそばづくりへの挑戦!』と題し「稲藤一のそば」の事務局長西在家悦子さんから5年間のそばづくりの苦労話を聞きました。

(以下西在家悦子さんのお話より抜粋)

初めは、稲藤地区の減反計画で米の作付けが出来ない分そばを蒔きました。そこで、紫波町が地産地消を提唱していることもあり、どうせなら収穫したそばで手打ちそばを作って皆に食べてもらおうということになりました。そばづくりの研修のため、県内は県北の二戸、県外は山形、長野など、時間をつくっては地区の皆で出かけました。

ラ・フランス温泉館の「日本酒を楽しむ夕べ」を開店日と決めたものの、その日までに腕の方が伴わず、ブツブツ切れたり、にちゃにちゃした食感のそばになってしまいお客さんに悪いことをしたなあと反省しました。

そんな一年目の反省から二年目、三年目と試行錯誤を繰り返し、やっとここ二、三年でおいしいと言われるようになりました。

今では毎日盛岡の店2ヶ所に卸しているそうです。自信がついてきたけれど、お店のお客さんから毎日色んな批評をもらい、気が抜けないそうです。

それぞれに仕事を持ち、農業に忙しい合間によくここまで続けてこれたなあと頭の下がる思いで聞きました。時間は見つけるものではなく、作るもの、とつくづく教えられました。



石ヶ森里山づくりプロジェクト報告！

平成 18 年 9 月 8 日～9 日開催

是信房の墓所がある石ヶ森で里山づくりが行われました。

参加した人は二日間で延べ約 140 人（地元住民 60 人、國學院学生 60 人、いわて森林再生研究会 10 人、みらい研関係 10 人）でした。

国学院大学の学生と先生方は紫波町の循環型まちづくり、特に森林資源循環に共感し、3 年間参加しています。その学生と地元住民と一緒に、下草刈り、間伐に汗を流しました。休憩時には冷たい麦茶、お昼には彦部産の米で作ったおいしいおにぎりを彦部地区の婦人部の



方々が用意してくれました。間伐が終わってしばらくして、彦部地区の方から、ちらほらと”

結い”がしばらくぶりにもどってきたよ、という言葉が聞かれます。

以下、参加者の感想でもって報告に変えさせていただきます。

佐藤 正次

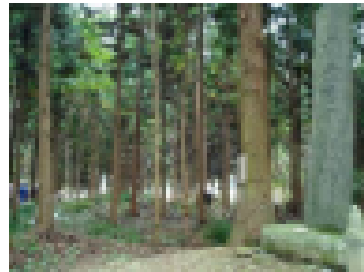
地域に住む人達が、大学生とともに体験できた活動は、まったく今までなかったものだから、いろいろな意味で貴重なものであったと今更ながら思うものです。

遊び半分かな、リクレーション気分かなとも思いながら参加しましたが、完全に的はずれ。学生たちがナタひとつで間伐作業に取り組む、あのまなざしにビックリ。さらに女子

学生までも汗だくになり本気になって自然に立ち向かう姿勢に、私は日本人の心を改めてみた気がしました。このような学生が育っていることに感銘し、私も参加して満足しました。何時の日か学生諸君が当地を訪れてきたときは、また、美味しいご飯を食べさせたい気持ちです。

石川喜一（地区協力団体事務局）

国学院大学の学生と教員がわざわざ当地に足を運び、地域の人達と間伐・枝打ち等を体験



きたということは地域のニュースでした。わずか二日間の交流体験でしたが、心に残る良き思い出になりました。

作業ばかりでなく、指導者の人から森林環境の保全の必要性を聞き、山仕事の手ほどきをしっかり受け、間伐・枝打ちの活動を思う存分行いました。学生達は男女半々で計 30 人、地域の人達も二日間で 40 人以上も参加し、荒れ放題の山はみるみるうちに変わってしまうのでありました。おかげで学生達と気持ちの良い汗をかくことができました。

二日目には美酒を交わしながら地域の生活文化などについて交流しあい、このような活動を続けようとする教員、学生たちに心を洗われたひとときでした。

地域の人々、食事を担当してくれた女性の方々、食材提供者そして寝具を無料で貸し出してくれるなど、たくさんのご協力がいただけたから成功したのだと思います。本当にありがとうございました。

菊池 柚里（古館小 5 年）

お母さんと仲良くきのこを探し、食べたのでとても楽しかったです。

スーパーで買ったきのこじゃなく、自分で山の中を探して見つけたきのこはとてもおいしかったです。また機会があったら行きたいです。

菊池 富美子

16 年ぶりの山でのきのことり、子どもと一緒に童心に帰り「あっちだ。こっちにもある」と夢中にとり、カゴ一杯になりました。しかし食べられるきのこはごく少量で、いかに天然きのこを探るといことが大変だと勉強になりました。また、お昼にいただいたきのこ汁のおいしかったこと。拾った栗は自宅で皮をむき、砂糖で煮たらおいしいおやつになりました。

このような貴重な体験学習を子どもと一緒に出来てよかったです。



産業まつりに参加しました！

10 月 21 日、22 日に行われた、第 23 回紫波町産業まつりに参加しました。

各部会の活動写真展示や、地産地消部会はあざみの会と協同で「なつかしいおやつ」と題してきりせんしょ、すあまなど昔ながらのおやつの試食販売、地元学部会は食廃油で作られたやわらかい石けんをこねてつくる「こねこねマイ石けんづくり」や、おはじき、お手玉などの昔の遊び体験、森と家づくり部会では木の香りや板の色などをヒントに木の種類をあてるクイズや積み木遊びを行いました。

子どもから大人までたくさんの方が参加してくれ、とても楽しい 2 日間でした。次回参加するときは、多くの会員の皆さんにも参加していただきたいと思います！

